奥多摩湖までサイクリング　～ 奥多摩むかし道経由 ～

「奥多摩むかし道」は、旧青梅街道と呼ばれていた道で、氷川から小河内に達するまでの道です。

この街道は、小菅から大菩薩峠を越えて甲府に至る甲州裏街道で、甲州街道より 8km ほど近道であったそうです。

現在の青梅街道は、柳沢峠を越えて塩山（甲州市）に至る道で明治 11 年に開通しました。

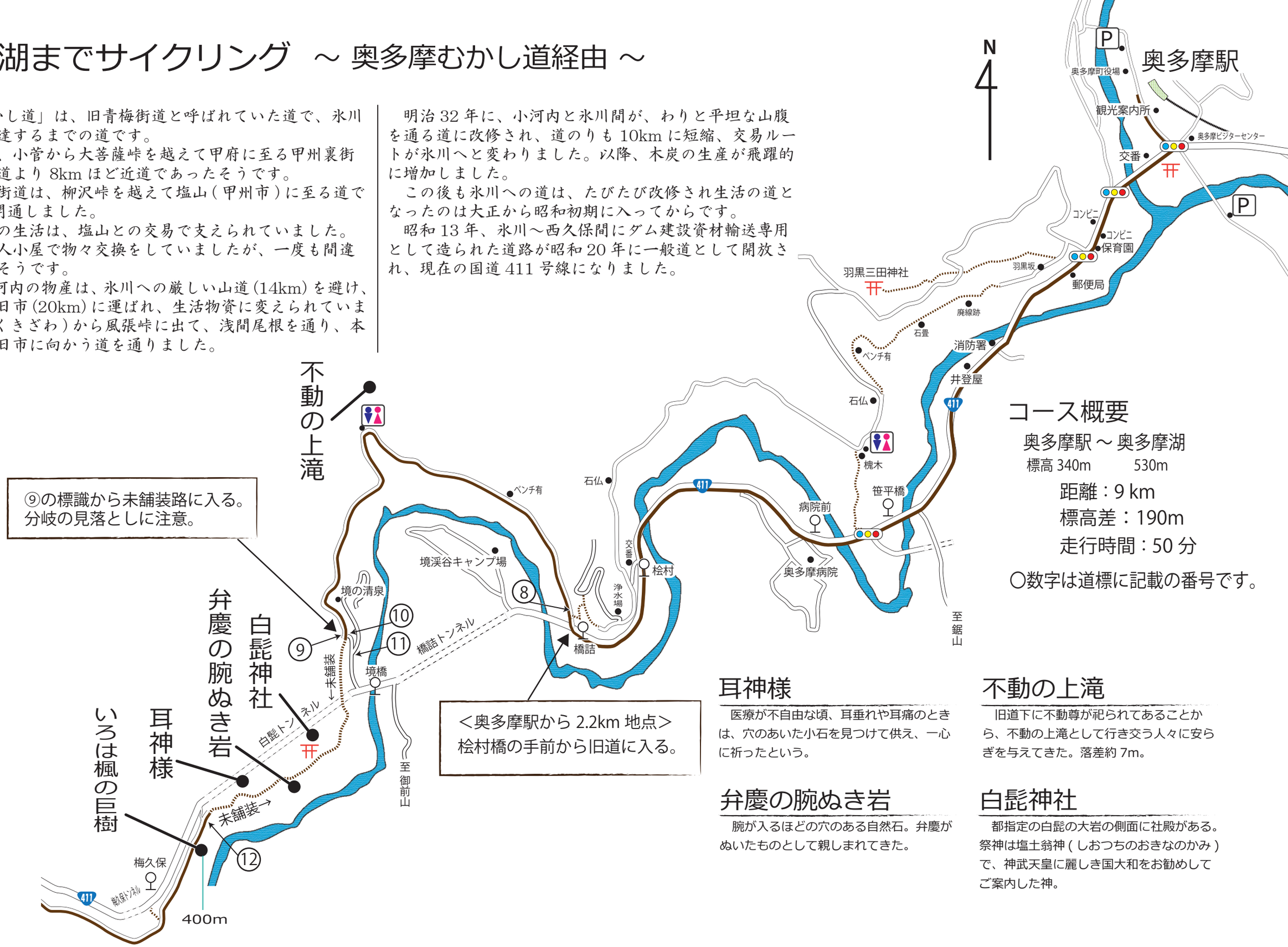
昔、小河内の生活は、塩山との交易で支えられていました。大菩薩峠の無人小屋で物々交換をしていましたが、一度も間違いはなかったそうです。

その後、小河内の物産は、氷川への厳しい山道（14km）を避け、歩きやすい五日市（20km）に運ばれ、生活物資に変えられていました。岫沢（くきざわ）から風張峠に出て、浅間尾根を通り、本宿に下りて五日市に向かう道を通りました。

明治 32 年に、小河内と氷川間が、わりと平坦な山腹を通る道に改修され、道のりも 10km に短縮、交易ルートが氷川へと変わりました。以降、木炭の生産が飛躍的に増加しました。

この後も氷川への道は、たびたび改修され生活の道となったのは大正から昭和初期に入ってからです。

昭和 13 年、氷川～西久保間にダム建設資材輸送専用として造られた道路が昭和 20 年に一般道として開放され、現在の国道 411 号線になりました。



＜裏面へ続く＞

（一社）奥多摩観光協会　東京都西多摩郡奥多摩町氷川 210　0428-83-2152

作成：令和 4 年 4 月 10 日

奥多摩湖までサイクリング　～ 奥多摩むかし道経由 ～

虫歯地蔵

歯医者がいなかった昔は、歯痛には煎った大豆を供えて、平癒を祈ったというお地蔵様。

道祖神

道路や旅人の守護神。石で象徴し、村境や峠・辻に座して、外から来る悪鬼邪心を防ぐ神として信仰されてきた。

玉堂歌碑

川合玉堂 (明治 6 年愛知県生まれ) は、日本画家で帝国美術院会員。山村や自然を情緒豊かに描き、短歌もよくし、歌集も残している。昭和 32 年 84 歳で没。

青目立不動尊

青目立不動尊は修験法印 (山岳修行の最高位の験者) の奥平家で、不動明王を祀り、悪魔退散、衆生済苦と村人を守護し、光明を与えてきました。

いろは楓

カエデ科のイロハカエデで、樹齢 200 年の巨樹が三本。11 月下旬頃が見頃。

惣岳 (そうがく) の不動尊

明治時代、水根の法印奥平家と惣岳の奥平家によって成田不動尊が観請され、昭和 10 年に現本殿・覆舎を再建。

厳道 (がんどう) の馬頭様

人ひとりが通れるほどの狭い旧道では、多くの馬が谷へ落ちたという。そのたびに供養塔が増えていった。

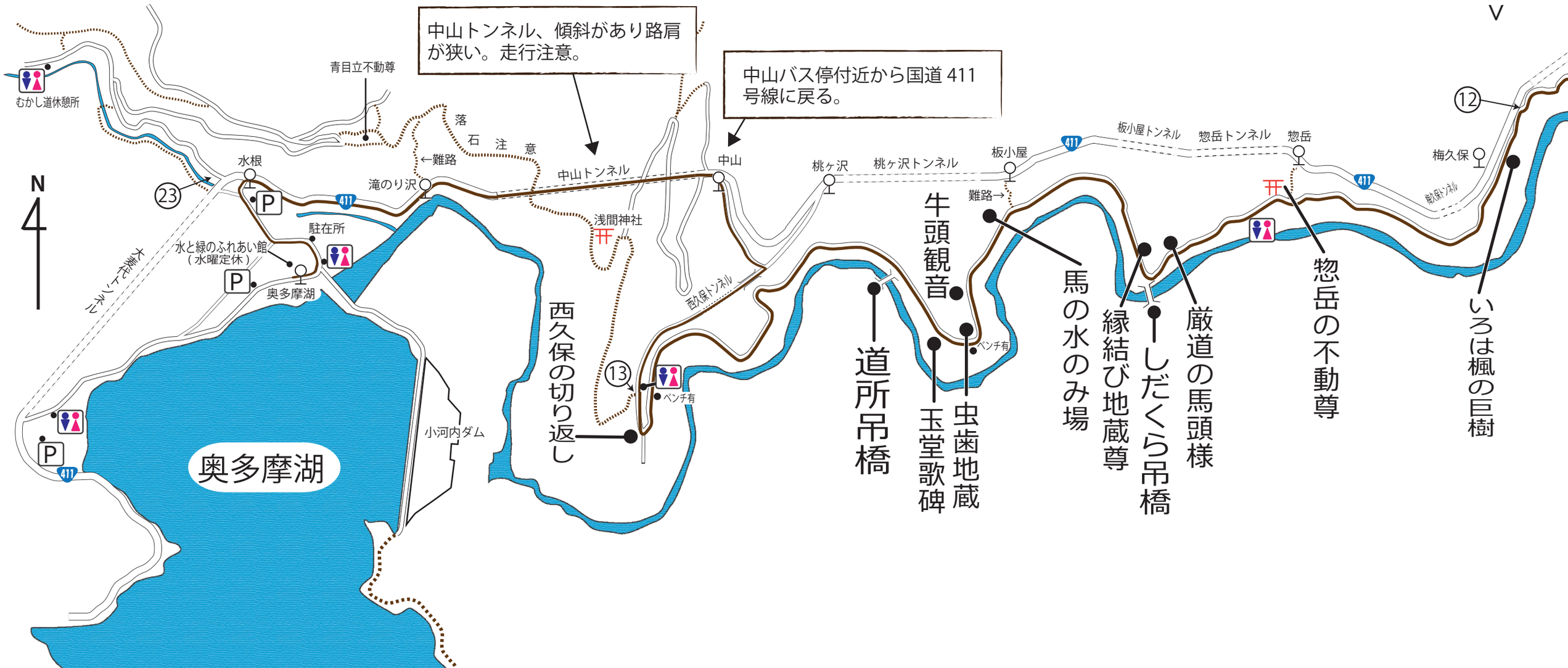
縁結び地蔵尊

将来のよき伴侶との結縁成就を祈願したというお地蔵様。
二股の大根を供えて祈れば恋愛成就すると云われています。

馬の水のみ場

ここで馬を休ませ、馬方衆はたてば茶屋でいっぷく。
一杯酒もあったとか。大島屋、しみず、ごーろの三軒があった。

牛頭 (ごず) 観音

旧道の難所にある観音様で、牛馬の通行の無事息災を祈った観音様。

＜裏面へ続く＞